

2018年に動員20万人を超える大ヒットを記録
日本中を深い感動で包んだあの物語には続きがあった!

アルツハイマー病を患った母を
98歳になった父が懸命に介護する日々。
そんな中、新型コロナウイルスの波が押し寄せて
事態は急変する。



入場
無料

ただし整理券が
必要です

認知症啓発映画上映会

ぼけますから、
よろしくお願ひします。



～おかえりお母さん～

日時 令和5年 3月18日 土

会場 養父市立ビバホール 養父市広谷250

1回目 開場/13:00 上映/13:30

2回目 開場/18:00 上映/18:30

上映時間

101分

上映後映画監督 信友直子氏の
オンライン講演会 20分

監督・撮影・語り
&ひとり娘

のぶとも なおこ
信友 直子



1961年広島県呉市生まれ。東京大学
卒業。在京キー局で数多くのドキュメン
タリー番組を手掛ける。放送文化基金
賞奨励賞、ニューヨークフェスティバル
銀賞、ギャラクシー賞奨励賞など受賞
多数。

整理券
配布場所
(各回300枚)

- 養父市介護保険課……………TEL.079-662-7603
- 養父市社会福祉協議会… TEL.079-662-0160
- 養父支部……………TEL.079-664-1142 大屋支部……………TEL.079-669-1598
- 関宮支部……………TEL.079-667-3248

参加者には
「やっぷー健康ポイント」
がつきます!



お問合せ先/養父市健康福祉部介護保険課地域包括支援センター
TEL.079-662-7603 FAX.079-662-2601



あれから4年。90代夫婦の愛の形を描いた感動の物語がふたたび始まる。

本作では前作をひも解きながらその後の夫婦の物語を描く。老老介護、認知症、看取り。日本全体が抱える高齢化社会のリアルな問題をありのままに、かつ、時にユーモラスに綴っていく。認知症とともに生きることを大変さや家族の苦勞に共感する一方で、こんな風に生きられたらと憧れを抱かせてくれるような夫婦の姿があった。

広島県呉市。信友直子監督が描くのは年老いた自らの父と母。アルツハイマー型認知症を発症した母の症状が進むにつれ、父は95歳にして人生で初めて家事を覚え、妻を支えている。現実を丹念に見つめた前作『ぼけますから、よろしく願います。』は、令和元年度文化庁映画賞等受賞。

人が生きて老いてゆく先には、必ず死と別れがあります。でも人生の最終章は悲しいだけではありません。お互いを思いやり、かわす笑顔もありました。今回もまた、誰もが自分のこととして感じてもらえる物語になったと思います。

(監督・撮影・ひとり娘) 信友直子



父は家事全般を取り仕切れるまでになり日々奮闘しているが、母の認知症はさらに進行し、ついに脳梗塞を発症、入院生活が始まる。外出時には手押し車が欠かせない父だったが、毎日1時間かけて面会に行き、母を励まし続け、いつか母が帰ってくるためのために98歳にして筋トレまで始め周囲を驚かせる。しかし2020年春には新型コロナウイルスが猛威をふるい面会すらままならなくなる。

避けて通れない老後の生き方の難しさを考えさせられました。家族との関わりや夫婦としてのつながり、他人事ではないこれからの生き方を教えていただきました。(70代 女性)

身につまされ、胸にジーンとくるものがあった。老いる事の大変さ、辛さ、その中に垣間見える二人の胸中、感動しました。(60代 女性)

父と母と娘の会話がとてもほっこりしていておもしろかった。(10代 男性)

前作上映時にいただいた感想の一部

認知症の方との接し方や、自分でどのように気を付けて行動するかなどが学べました。この経験を大切にしていきたいです。(10代 男性)

お父さんの心の大きさと妻を思う優しさに感動した。私たちが20年後、仲良く感謝して暮らし、このお父さんの様に生きたいと思った。(70代 男性)

主催：養父市／認知症啓発映画上映実行委員会(養父市内認知症カフェ連絡会)
協賛：社会福祉法人関寿会／社会福祉法人但馬福祉園／社会福祉法人あそう
社会福祉法人かへの郷福祉会／医療法人社団絹和会但馬病院／医療法人社団俊仁会大植病院
南但馬歯科医師会／一般社団法人猫の手くらぶ／社会福祉法人養父市社会福祉協議会
後援：養父市医師会／兵庫県社会福祉協議会／出高校区協議会／認知症の人と家族の会兵庫支部

©2022「ぼけますから、よろしく願います。～おかえりお母さん～」製作委員会

